



すじぎぼうし 「本草図譜」 岩崎濯園著 大正版より Hosta sieboldiana コバギボウシの変種である。 亮軒記

# 花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 馨 発行所/名古屋園芸株式会社 〒460-0005 名古屋市中区東横2-18-13 tel. 052-931-8701 http://nagoyaengei.co.jp/

20 8

名不屋園藝



葉入りであそぼう



① ローズリリーブーケ (ジュリア) ¥5,000+税



② ローズリリーアレンジ (イザベラ) ¥5,000+税

## 香りのバースデーフラワー

～ローズリリー～



③ ローズリリーマイウェディング 1本 ¥1,500+税 & フラワーベース ¥2,000+税

暑さが身にこたえる季節になりました。そんな今月にご紹介します香りのバースデーフラワーは「ローズリリー」です。ローズリリーとはその名の通り、バラのような八重咲のユリのことをいいます。ユリは季節を問わず一年を通して楽しむことができます。高湿度期にしかお目見えしない貴重な品種です。見た目のインパクトはもちろんです。豊かな芳香を持ち、花粉をつけないという世界的にもまだめずらしいタイプのユリになります。切り花として出回るユリは主に5系統あり、そのうちのひとつにオリエンタルハイブリッドがあります。それは花の豪華さ、芳香性の高さ、日持ちの良さを併せ持つ優れた品種群として7月号でもご紹介しました。

ローズリリーもオリエンタルハイブリッドの特徴を引き継ぐ大変優れた品種です。花の大きさは一般的なオリエンタルハイブリッドよりもやや小さめですが、それはアレンジしやすい点で大きなメリットになります。小さな花瓶でも一輪添えるだけで、美しく飾ることができます。また、1本に3〜5輪ほどついているので、切り分けて数か所に飾れば爽やかな香りとともに部屋中が華やかで、しかも、花粉を持たないのでお手入れも簡単です。もちろんフラワーギフトとしても大変おススメ。咲き始めるころは不思議なシルエットをしていますが、咲いた優雅な姿にきつと驚きと感動を覚えることでしょう。

### information

#### 『花の講座』

パンフレットが出来上がりました

名古屋園芸「花の講座」10月からのパンフレットが出来上がりました。お馴染みの人気講座に加え、秋からの講座には欠かせないクリスマスやお正月など季節行事に合わせた講座もご用意しております。

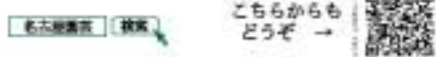
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため人数を制限し、しっかりとソーシャルディスタンスを保ちながら受講していただきます。また、手洗い場や消毒液の完備、室内の換気・除菌などの対策も随時行っておりますので安心してご参加ください。

花や緑のある彩り豊かな生活を、名古屋園芸「花の講座」で一緒に始めてみませんか？

\*感染拡大状況に伴い、講座の開催を休止または延期する場合がございます。予めご了承ください。



お申し込みは 花の講座専用電話 052-937-3391 受付時間 月～金曜日 10:00～17:00 Webでのお申し込みは24時間OK!



## 花の博物館 第29号

草木錦葉集

水野忠暎(たんとし)著 大岡雪峰、関根善徳画

小笠原左衛門尉亮軒

錦葉とは、植物の主として葉の部分に白又は黄色の斑模様となる現象を、一般的に斑入と称し、著者の忠暎は、それを筆に筆に見立てて名付けたのであろう。江戸時代に入り庭や畑に植物を植え觀賞することが流行した。江戸中期、享保年間には陶磁器の生産が盛んになり、植木鉢も大量に生産されるようになって、それまでの庭植え中心の觀賞とは異なり、栽培の過程を共に、人と植物との係り力が密接となる。植物の姿をより身近に観察し、その姿の美しさを愛しむことができるようになった。

著者忠暎は明和4年(1767)、四ツ谷大番町、小笠原十人扶持、屋敷は620坪(約2000㎡)、彼は、園芸名を錦葉作留集(おはちうえつくろぞう、あるいはおはちうえつくろとめぞう、とも読める)と称し、斑入り植物の蒐集と栽培に熱中、その集大成として「草木錦葉集」の著作と刊行を決意した。文政12年に結巻として、植物の斑の入り方、名称を始め栽培法、中には当時の最先端施設である「温室」(とうむろ)での栽培と心得など細部にわたりに記している。

記載植物は名称をいっしょに分け、いっしょに23文字に相当する植物約1千種を斑入りで記載解説した。終巻には続編、終編として、うすまで24文字分の刊行予定の広告があるも、著者忠暎は天保5年(1834)9月8日で死亡しているため、中断されたのか、この部分の刊行はされなかったのが惜しむられる。

\*この書は再々増刷され、明治13年、栽花園版には園家の関根善徳が存命であったように、忠暎の肖像画が銅板画で挿入されている。

## ぶどうのはなし 2020夏

皆さんご存知の方も多いと思いますが、外の苗売場にはブドウの木があります。まさしくシンボルツリーにふさわしい行まい。樹齢も30年を超えてきました。

その名はマスカットオブアレキサンドリア。ブドウの女王の異名を持ちます。紀元前からエジプトで栽培されていたと言われていいます。

女王様と呼ばれているだけありまして、生育環境も重なり、ここ最近では非常に気難しい女王様に変貌を遂げようとしております。

数年前までは虫や病気などあまり気にすることなく順調に生育していたのですが、ここ数年は事情が変わってきました。今年もカイガラムシ、うどんこ病、花ぶるい(うまく受粉できていない)で房の形がいびつになるなど、なかなか手のかかる女王様なのです。

一見、下から見るととても立派にエメラルドグリーンで輝いているのですがよくよくみるとうどんこ病にかかっている房も見られます。殺虫殺菌剤をかけながら処置をしていくのですがなかなか手ごわい女王様です。雨は当たらない苗売場のハウスですが、今年の梅雨は長雨続き、風通しも決してよくないので湿度が顕著となります。そして梅雨が終わると灼熱の名古屋の夏がやってきます。なかなか過酷な状況を超えながら9月中旬の収穫を迎えます。今現在(7月下旬)の段階では90房程度できています。ここからどれだけいい状態、食べられる状態を保てるか楽しみでもあり、心配でもあります。

香りも強く上品な甘さで味は格段のおいしさがあります。9月中旬の収穫期を迎えたら皆さんにもご試食いただこうと考えています。女王様の成長を楽しみに見届けてください。